

令和4年度 半田市総合教育会議 会議録

開催日	令和4年9月28日(水)
開催場所	半田市役所 庁議室
構成委員	半田市長 久世孝宏 教育長 鈴川慶光 教育委員 新美 大 教育委員 榊原 肇 教育委員 久米宏和 教育委員 桂 優子 教育委員 正村 日登美
構成委員以外の出席者	教育部長 岩橋平武 学校教育課長 森田知幸 主任指導主事 鈴木康弘 学校給食センター所長 前田成久 生涯学習課長 青木美希 スポーツ課長 加藤計志 スポーツ課主幹 長坂壮浩 企画部長 山田 宰 企画課長 大木康敬
事務局	学校教育課副主幹 渡辺富之
協議事項	「幸せになるための教育を実現する会議」による提言について

〈 開会 9時00分 〉

事務局 (学校教育課副主幹)	<p>会議の開催に先立ち、総合教育会議の目的など確認させていただき、本日の流れも含めて説明させていただきます。資料「総合教育会議の目的等及び本日の流れ」をお願いします。</p> <p>初めに、「総合教育会議」とは、何を目的に設置された会議かと言いますと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方教育行政における責任を明確化し</li> <li>・迅速な危機管理体制の構築をするとともに</li> <li>・市長部局との連携強化を図るよう</li> </ul> <p>これらを実現するための手段のひとつとして設置している会議で、平成27年度の法律改正に伴って各市町村に義務付けられました。</p> <p>総合教育会議の目的に「市長部局との連携強化」とあります。本日の議題にも関係してきますので、市長部局との連携強化の必要性について説明いたします。</p> <p>みなさまご承知のとおり、教育委員会は教育に関する事務を処理するために設けられた合議制の執行機関で、教育の政治的中立性や継続性、安定性を確保するため、市長部局から独立して設置されています。</p> <p>しかしながら、教育委員会が事務を処理するための予算編成権や条例化などは市長部局が権限を有しています。</p> <p>したがって、本日の総合教育会議によって、それぞれ重要な役割を担う執行機関同士で調整・協議することで、より一層民意を反映した教育行政の推進が</p>
-------------------	--

市長	<p>図られることとなります。</p> <p>また、総合教育会議は市長部局と教育委員会の対等な執行機関同士の調整・協議の場として位置づけられていますので、会議において記載にあります「調和」による調整がついた事項については、それぞれが尊重義務を負うものとされています。したがって、執行権限を決定する「決定機関」であったり、市長の諮問に応じて審議する「諮問機関」であったりではありません。</p> <p>提言に対する広義な調整と、幅広い協議の場として位置づけられています。</p> <p>得られる効果としましては、これらの目的で行われる総合教育会議を通じて、市長部局と教育委員会の両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行することが可能となり、より一層開かれた教育行政の推進が図られます。</p> <p>本日の流れになりますが、このあと市長、教育長よりご挨拶をいただき、議事に入ってまいります。</p> <p>議題としましては、今年度、市長部局である企画課が事務局となり、市民委員や有識者で構成する「幸せになるための教育を実現する会議」が6回に渡り開催され、当会議でとりまとめられた内容が市長に対し提言されました。</p> <p>本日はこれを受け、総合教育会議において、皆様から闊達なご意見などいただき、調整と協議を図り有意義な会議として、半田市の教育行政の方向性を共有できる効果的な時間にしていただきたいと思います。</p> <p>それでは、令和4年度半田市総合教育会議を開催いたします。最初にこの会議の主催者である半田市長からごあいさつをいただきます。</p> <p>令和4年度半田市総合教育会議の開催にあたり、皆さま大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>先ほどの事務局の説明で、この会議は調整の場とありました。同じ市役所内でもともに業務している市長部局と教育委員会の関係性については、私も含め、わかりづらい部分があると感じています。</p> <p>しかしながら、総合教育会議という機会を通じて、市長部局を代表して教育に関する考えなどを伝えさせていただき、より良い方向に進んでいきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>私が市長就任前より、また、就任後も変わらず市政運営の前提にありますのは、他の自治体と横並びであってはならないと考えています。</p> <p>その中で半田市の特徴を打ち出すひとつの施策として「教育」をさらに良くしたいと常々思っています。</p> <p>長い歴史の中で、これまでの半田市の教育行政はしっかりと取組んできましたし、ハード面においては市内には複数の高等学校が点在しているなど、知多地域の教育行政の中心であるべきで、半田市の特徴として発信したいと思っています。</p>
----	---

<p>事務局 (学校教育課 副主幹)</p>	<p>そのようなことから、私としましてもさらに良い教育環境を整え、子どもたちが健やかに成長できるよう取組んでまいりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。</p> <p>今日は限られた時間ではありますが、有意義な時間となりますよう皆様のご協力をお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>続きまして、教育長より挨拶いただきます。</p>
<p>教育長</p>	<p>本日はこのような会議を設けていただきありがとうございます。</p> <p>市長におかれましては、日頃から教育、子育てを重点施策に掲げていただき、ご支援いただいておりますことに深く感謝申し上げます。</p> <p>昨年度から今年度にかけて、小中学校の外壁補修工事を急遽予算措置いただき、子どもたちの安心、安全な教育環境の整備に着手できました。</p> <p>また、エアコンの設置やGIGAスクール構想による一人一台のタブレットが整備され、全国学力学習状況調査において、タブレットの使用状況を調査する項目があり、小学校は全国平均とほぼ同等の使用率で、中学校に至っては20ポイント上回る結果を出しています。</p> <p>学校教育以外でも生涯学習課がセントラル愛知との協働による、音楽を中心とした街づくりを推進していることや、図書館、博物館、南吉記念館においても、魅力ある事業展開に取り組むべき施策を着実に進めているところです。</p> <p>学校教育に関しては、これまでと同様に「地域とともに」を合言葉にコミュニティスクールの充実を図っています。</p> <p>コミュニティスクールの事業内容は、これまで環境整備に偏りがちでありましたが、不登校や学習の遅れのある子どもたちを支援する事業など、幅広く学校をサポートする活動も出てきていますので、今後はこのような事例を共有し活動が広がっていくよう働きかけていきます。</p> <p>今後もキャリア教育をベースに、子どもたちが将来に夢や希望、目標を持つことにより、よりよい学校生活が送られるよう、また、本日の議題にもありますように「幸せ」を一つのキーワードとして、地域の方々とともに、子どもたちをサポートしていきたいと考えています。</p> <p>学校が好き、地域が好き、半田が好きと思える子どもたちを育てていき、学校が地域の核となれるよう、関係者の皆様と連携を深めながら取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局 (学校教育課 副主幹)</p>	<p>それでは、半田市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長に議事の進行をお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、次第の3 協議事項に入ります。</p> <p>(1)「幸せになるための教育を実現する会議」による提言について、企画部より説明いたします。</p>

企画部長	<p>このたび、「幸せになるための教育を実現する会議」から市長に対しまして、提言書が提出をされましたのでご報告をさせていただきます。</p> <p>まず会議の経過でございますが、「幸せになるための教育を実現する会議」は、市民と有識者の5名を委員とし、5月12日に設置をしまして、これまで6回にわたり会議を開催いたしました。</p> <p>それぞれの会議の議事要旨について、本日資料でお示していますが、各委員とも、まず第1に、「子どもたちの将来のために必要なことは何か」を念頭に置きまして、活発に議論をいただき、9月22日に提言として取りまとめが出されたものであります。</p> <p>前文につきましては、背景や幸せ教育の必要性などが記載をされており、これからの時代を担う子どもたちが、激動する社会を強く生き抜いていくためには、自分自身の判断基準で物事を見極め、納得した答えを導き出し、行動していく能力が必要であり、その判断基準となるものが「幸せ」であるとしております。</p> <p>そしてその取組を、半田市という地方自治体レベルから取り組むことが、大変価値のあるものとしております。</p> <p>その上で、会議から、3点の提言をいただきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 半田市において「幸せになるための教育」を考えて実現していくこと</li> <li>2. 「幸せになるための教育」を実現していくやり方は、各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと</li> <li>3. 教育現場で「幸せになるための教育」を実施しやすい環境整備に努めること</li> </ol> <p>以上の3点であります。説明は以上です。</p>
市長	<p>ただいま企画部より説明がありましたが、私からも補足をさせていただきます。</p> <p>この度、私がかねてより「幸せ」を教育現場で提供したいという想いがありましたが、私の独りよがりの考えであってはならないと考え、市民や有識者の方々を委員として招き、議論を重ねていただき導いた提言書となります。</p> <p>当会議を立ち上げる経緯として、私が市長としてすべての市民が「幸せ」になってもらいたいという想いから始まったものです。</p> <p>全市民が「幸せ」になってもらうには、まずは教育現場から取り組んでいきたいと考えました。その理由として、義務教育課程ですべての子どもたちが集う場所を取組むことや、子どもたちを対象とすることで、将来にわたり長く「幸せ」について触れていくことになることから効率がよい点があります。</p> <p>「幸せ」に関しては人それぞれに感じ方がある中で、「幸せ」とは何かを自らが考え、見つけ出し、それを実現することが大切であると思っています。</p> <p>様々な「幸せ」があるからこそ考える力が必要であり、「幸せ」を実現するために必要な思考や行動が生きていくうえでは絶対必要なものと考えているため、当会議を立ち上げました。</p> <p>学校現場では、文部科学省による学習指導要領に基づいた教育の実践が基礎となっていることは承知していますが、この中に「幸せ」という観点を加えたいという想いで取り組んでいただきたいと思います。</p>

	<p>ただいまの提言につきまして、質疑等ありましたらお願いいたします。</p>
久米委員	<p>「幸せになるための教育を実現する会議」の 5 名の委員の構成を教えてください。</p>
企画課長	<p>委員 長 鈴木 雅貴氏（市内衣装レンタル業経営） 副委員長 三浦 昌道氏（愛知教育大学特任教授） 委員 神谷 義尚氏（市内鉄鋼業顧問） 委員 大崎 裕美子氏（市内金機関勤務） 委員 曽根 香奈子氏（市内製造業勤務）</p>
新美委員	<p>今回提言書を初めて拝見したが、提言事項が抽象的で具体的にどのように取り組むべきなのか、具体的に取り組むものではなく理念として広く授業に取り入れるものか、また、これらをすべて学校が考えていくことを望んでいるのか、教育委員会の関わりなど提言のイメージを教えてください。</p>
市長	<p>具体的にどのように進めていくかは、提言書にもありますように各学校、各教員が主体となって考え取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>この提言に至った経緯として、子どもたちの「幸せ」を考えるうえで、先生方も「幸せ」でなければ成り立たないのではないかとの考えから、具体的な授業や取り組みを提示するのではなく、先生自身が「幸せ」について、子どもたちとともに考えられるものを創造してもらいたいと思っています。その中で教育委員会はサポートしていただきたいと思います。</p>
新美委員	<p>教育委員会は「幸せ」についての方針や方向性など各学校に示し、あくまでも具体的な取り組みは各教員の主体性に任せていくことが、提言書のイメージであると理解しました。</p>
市長	<p>具体的な取り組みについては、毎日の授業の中で「幸せ」に触れる時間を設けることや、道徳の授業の中で「幸せ」に特化した視点を取り入れるなど、様々な考え方があると思うので、十人十色のアイデアを期待するもので、市長部局としては提言項目にもあります、環境整備については支援していきたいと思っています。</p>
新美委員	<p>子どもの成長には学校だけではなく家庭教育も大きく影響すると思います。学校では子どもたちが同じように教育を受けることができても、様々な家庭環境下で成長している子どもたちに「幸せ」を考える過程においては、特に親の発言などで大きく影響するので、親とも一緒に「幸せ」について考えることで、この提言はさらに有効的なものになると思います。</p> <p>また、市報などを通じて市長のメッセージを発信することも「幸せ」について考えるきっかけの一つになると思います。</p>
市長	<p>当然のことながら、家庭教育は大変重要なものであることは理解していますし、学校教育と両輪で推進できると加速度的に事業展開していくものと思っています。これまでの会議の中でも、家庭教育のことは議論してきましたが、今回の提言にあたっては幅を広げすぎずに、あえて盛り込まなかった経緯があります。しかし</p>

<p>桂委員</p>	<p>ながら、次のステップとして必ず必要となってくるキーワードと認識していますので、引き続き議論していきたいと思います。</p> <p>市長メッセージについては現在準備していますので、整い次第発信していきます。</p> <p>私は最初に「幸せになるための教育」と聞いたときは、「幸せ」になるために新たなことを学ぶカリキュラムが組まれてしまうのではないかと感じていました。子どもたちには「幸せ」を日々の暮らしの中から見出してもらうなど、自身の内側から得られるものと思っているので、「教育」というフレーズがあることで学びとして外側から教えられるものではないかと思っていましたが、これまでの市長の説明の中で、「幸せ」になるために、導くことや引き出すことに主眼を置いていることがわかりましたので、是非推進してもらいたいと思いました。</p> <p>また、学校現場で「幸せ」について学ぶのであれば、学習指導要領にも影響してくることになると思うので、どこまで踏み込んだ議論ができるのか、しなければならぬか疑問に思います。</p>
<p>市長</p>	<p>会議の名称についてはいろいろと検証したうえで決定しましたが、「教育」というフレーズが「幸せ」を押し付ける印象をあたえてしまったかもしれません。</p> <p>「幸せ」について考えてもらいたい、考えるにあたってのきっかけや要素など学校現場で養いたい思いから選択したものです。</p> <p>学習指導要領については、直接的に修正等はできないものと認識していますが、指導要領も突き詰めていくと「幸せ」につながる部分も多分にあるので、「幸せ」をキーワードに自由度の高い議論をしていきたいと思っています。</p>
<p>正村委員</p>	<p>常日頃より「幸せ」について意識していないので、改めて「幸せ」について何かを考えてみると、私自身は他者との繋がりや横や縦の連携の支えあいによる日々の暮らしなのかと思いましたが、市長の「幸せ」とは何ですか。</p>
<p>市長</p>	<p>市議会議員のころから、市政のチェックなどをするなかで評価の判断基準をどこに定めるべきかを常に考えていました。その中で市民がどれだけ「幸せ」を感じているかというものを考えるようになりました。</p> <p>また、私自身の「幸せ」について考えると、この数年でいろいろと考えは変わってきましたが、現在は周りの人たちが、楽しく暮らしている姿や生き活きと生活している姿を見ることが、子どもたちの成長を感じるのが私の「幸せ」です。</p>
<p>正村委員</p>	<p>大人って幼少期を振り返り「幸せ」だったと感じることはできるが、当事者の子どもたちに、今「幸せ」ですかと尋ねても、答えられない子が多い印象があります。</p> <p>「幸せ」を感じることは、ある程度年齢を経たうえでの感覚ではなんでしょうか。</p> <p>子どもたちや若い先生方には「幸せ」だけではない、共感の得やすいフレーズによる副題などを用いることで今回の提言内容が伝わるよう工夫することが必要ではないかと感じました。</p> <p>今後せつかくの素敵な取組みをしていくうえで、誤解を招くことのないような言葉選びも必要だと思えます。</p>

市長	<p>具体的な取組みもそうですが、言葉選びも重要なポイントになると思います。現場の先生方には時代背景などに即した言葉の選択についても考慮いただきたいと思います。</p>
新美委員	<p>「幸せ」の考え方について確認させていただきますが、例えば第三者から見て生活が困窮していて満足な食事が取れていない子がいたとした場合、一概に周りとは比べるのではなく、その当事者の子にとって、その暮らしに「幸せ」を感じているのであれば、本人の気持ちを尊重するという点でよかったですでしょうか。</p>
市長	<p>新美委員のおっしゃる通りの理解です。 ただし、狭義の世界で考えるのではなく、いろいろな考えや世界を広げたなかで本当に「幸せ」なのかを考えられる環境づくりは必要と思っています。</p>
久米委員	<p>「幸せ」とは、そもそもつかみに行くものであるという考えもありますし、他人のために何かすることによって、おのずと何かしらの「幸せ」を感じることもあると思います。 さまざまな「幸せ」の感じ方などがある中で、子どもたちにとっては、どうすべきで何が有効的なのかは非常に難しい判断になると思います。 学校や先生方の考え方で不均一なものになってしまう可能性もあると思います。</p>
市長	<p>「幸せ」の概念は十人十色で、感じ方も同様で、なおかつ明確な正解はないと思っています。当会議では様々な考え方があるからこそ、みんなで一緒に考えて「幸せ」になるためのきっかけを発見したり、行動に導くことの大切さを、まずは学校現場で導入したいと議論してきたものです。</p>
教育長	<p>これまでの発言などから、最終的に考えられたうえでの「幸せ」であるかがポイントのひとつとなっていますが、例えば子どもたちに、あなたの「幸せ」は何かと尋ねた場合、「僕は1日ゲームをやっていることが幸せです。考えに考えてたどり着いた幸せです。」と答えた場合はどうでしょうか。 もちろん、すべてを否定すべきではないとは思いますが、すべてを肯定できるものでもないとした場合、教員は子どもたちの考え方に対して指導をします。 指導が押し付けにならないように配慮が必要な一方で、このままではいけないと思う教員の想いもある中で、具体的にどのような取組みをすべきか現場は非常に悩ましいと思います。 小学校1年生から中学校3年生までの子どもたちがいる中で、年齢や経験の差から考え方に幅があるため、一概に子どもたちの考え抜いた「幸せ」をすべて尊重するのではなく、ある程度の指導などは必要になると思います。</p>
市長	<p>教育長の言う通り1日中ゲームをやっていることをすべて認めるというのは、多様性を認め合う社会へとつながりますが、成り立たない部分もあると思います。</p>
新美委員	<p>今回の提言は、そのことも含めて認めようとするものではないのですか。 低学年の児童に「他人の幸せが自分の幸せ」と説いても共感は得られないのではないのでしょうか。自分自身の「幸せ」について考えてもらい、結果1日ゲームだと</p>

<p>市長</p>	<p>したら、1日ゲームをするために必要なことを考えることや、中学生となれば将来プログラマーとして生計をたてるために必要なものなどを学ぶことが大切だと思います。</p> <p>子どもたちには、将来の夢や目標に向かって生き活きと進んでいく道しるべになることが「幸せ」につながるのだと思います。</p> <p>「幸せ」には内から感じるものと、目標などを掲げて達成する「幸せ」があると思います。</p> <p>多様性を認め合う意味合いにおいて、全否定はすべきではないと思いますし、考えたうえで「幸せ」であるならば認めるべきことは認め、軌道修正もあり得るものと思っています。</p>
<p>教育長</p>	<p>どこまで認めるかについて、最低基準としては「法を犯していない」ということになります。</p> <p>法を犯すことは絶対にしてはいけませんが、法を犯していないが人に迷惑をかける行為が、その子にとって「幸せ」だしたら、学校は軌道修正するよう指導を検討します。しかし、法に触れない部分の解釈の幅が多様性ととも広がっていることから、指導を検討することも家庭では問題ないとしているケースもあります。</p> <p>学校が家庭に教育していくことは現実的に困難であり、その中で、教員の取り組み方などで戸惑いは出てくると思います。</p>
<p>桂委員</p>	<p>「幸せ」について子どもたちが個々に考えていくことが大切になってくると思いますが、考えるにあたって、いろいろな人と関わりを持つことや話を聞くことで見識が広がり、「幸せ」の価値観などが醸成し蓄えていくことができる場が学校だと思います。</p> <p>「幸せ」は身近にあるもので、すごく広義で幅広いものであるので先生をはじめいろいろな人たちの考え方や発見に触れて子どもたちには「幸せについていろいろ考えられる環境」と、様々な経験から得られる「幸せを実感できる取組み」の両輪で進めてもらいたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>「幸せ教育」を全学年で実施する場合に、低学年の児童には「幸せ」とは何かを引き出すことは困難で、まずは各校が工夫して、うれしいことや楽しいことなどを取り入れた取組みなどを実践することになると思いますが、最終的に目指すべき「幸せ」の定義とは何かという、テーマに再び戻ること考えられるので、具体的な取組みの中では課題なども出てくると思います。</p>
<p>榊原委員</p>	<p>教育委員を2期務め、9月30日をもって教育委員ではなくなりますが、一市民となっても、「幸せ」になるための半田市の教育については一緒に考えていきたいと思っています。8年の任期中には小中学校を訪問することもありましたが、随分変化している印象を受けました。やはり先ほど話がありましたように、低学年の児童への伝え方と、中学3年生への伝え方では、子どもたちの吸収具合も違いますので、丁寧にお伝えいただきたいと思います。</p> <p>テーマが「幸せ」であることから、これでという結論に結び付きづらいものではありますが、人それぞれの「幸せ」に対する価値観を、様々な方たちと意見交換し市内</p>



<p>市長</p>	<p>の小中学校で広く展開していくことを望みますし、そのことが、一般市民にもうまく伝えられ、市長が求めるすべての市民の幸せにつながることを切に願っています。</p> <p>各委員より貴重なご意見等本当にありがとうございました。提言内容についての質疑等がある程度できたものと思います。</p> <p>「幸せになるための教育を実現する会議」よりいただきました提言内容を市長として改めて教育委員会に提言させていただきます。</p> <p>今後は、教育委員会にて提言内容について協議いただき、ご検討いただきたいと思います。引き続き教育委員会と市長部局が密に連携を図り進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議題は以上になります。</p> <p>進行を事務局にお返しします。</p>
<p>事務局 (学校教育課 副主幹)</p>	<p>長時間にわたりありがとうございました。</p> <p>本日の会議内容を議事録として作成し、完成次第ホームページへ掲載させていただきます。</p> <p>これをもちまして、令和4年半田市総合教育会議を終了させていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>

〈 閉会 10時30分 〉